

班会議情報共有システムの使用に関する調査結果

I 調査

平成28年2月から3月にかけて、新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業ならびに、肝炎等克服政策研究事業のプログラムオフィサーに対して、「班会議情報共有システムの使用に関する調査票」（別紙1）を配布し、調査を行った。回答は任意とし、2名のプログラムオフィサーから回答があった。

II 項目ごとの集計結果

1 システム全体について

Q1. 使いやすさ

<回答>使いやすい：2名

Q2. 文字の大きさ

<回答>普通：2名

Q3. 班会議開催情報共有および情報交換の効率化

<回答>役立っている：2名

2 ページの項目について

Q4. 現状の掲載項目について（「応募研究事業」「班会議名」「課題番号」「研究課題名」「開始～終了年度」「研究代表者名」「班会議主催者名」「班会議開催日時」「班会議開催場所」「問合せの連絡先」を掲載）
<回答>現状で良い：1名、不足している：1名（詳細：出席するPOの名前）

Q5. 「班会議のプログラム及び開催案内」「研究計画書及び交付申請書」「班会議資料（評価委員会におけるコメント票）のダウンロード

<回答>役立っている：2名

Q6. 出欠登録に対する事務局のレスポンス

<回答>早い：2名

Q7. 班会議の報告書の記載内容（「総合点（1～10点）」「研究課題がスケジュール通りに進んでいるか」「研究班内の連携は良好か」「評価すべき点」「検討すべき点」「その他」を記載）

<回答>妥当である：1名 その他1名：（妥当であるが、5点満点でも良いのではないかと）

3. システムのメール機能について

Q8. システムからの「班会議登録のご案内」

<回答>必要：2名

Q9. 班会議の出欠回答について、システムからのリマインドメールの送付

<回答>必要：2名

【資料5】

Q10. 班会議前日に、出席する班会議へのリマインドメールの送付

<回答>不要：2名

Q11. 班会議終了後、報告書作成のリマインドメールの送付

<回答>必要：1名、その他：1名（詳細：原則不要だが適宜必要）

Q12. その他ご要望・ご意見

●良く出来たシステムです。総合点は不要かと思っていたのですが、やはり、POが全体的にはどう感じたかということを知る上では重要だと思います。

平 成 2 7 年 度

厚生労働科学研究費補助金公募要項

平成 26 年 12 月 11 日

厚生労働省大臣官房厚生科学課

Ⅲ 疾病・障害対策研究分野

5. 感染症対策総合研究事業

(1) 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業

<事業概要>

近年新たにその存在が発見された感染症（新興感染症）や既に制圧したかに見えながら再び猛威を振るう可能性のある感染症（再興感染症）が世界的に注目されている。今後、国内での発生が危惧されるこのような感染症に対して、科学的なエビデンスに基づいた政策の推進が求められている。

また、予防接種は、感染症を予防することにより国民の健康を向上させる有効な公衆衛生対策となるが、副反応の問題等により我が国ではワクチン・ギャップと呼ばれる状態が生じており、予防接種の有効性・安全性に関する評価・情報提供に基づく適正かつ継続的な予防接種政策が求められている。

本事業は、今後、新たに国内で発生が危惧される感染症、ほとんど克服されたと考えられていたが再興のみられる感染症や、一類感染症等国内での発生は少ないが国外から持ち込まれる可能性のある感染症、性感染症など、国民の健康に大きな影響を与える感染症等に対し、サーベイランスその他の感染症対策の基盤を強化する研究や危機管理のための研究、予防接種の有効性・安全性に関する研究等を推進することで感染症から国民の健康を守るために必要な研究成果を得ることを目指す。

<新規課題採択方針>

新興・再興感染症について、国内におけるまん延の防止、発生時の適切な対応の基礎となる感染リスク評価及び国民への適切な情報提供並びに予防接種政策推進等に資する研究を行う（ただし、肝炎、HIVに関する研究を除く。）。

研究費の規模：①、③、④ 1課題当たり 5,000千円程度（1年当たり）

② 1課題当たり 15,000千円程度（1年当たり）

研究期間：1～3年

新規採択予定課題数：4課題程度

<公募研究課題>

(1) 国内における感染症対策の強化・推進に関する研究分野

【一般公募型】

① 性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究

(27120101)

「性感染症に関する特定感染症予防指針」に基づき実施されている対策について調査研究を実施するとともに、本指針の次回改正（平成 28 年度を予定）に向けて、検討の基となるエビデンスの提供及び具体的な対策を提言する研究を募集する。

② 食品由来感染症の病原体情報の解析及び共有化システムの構築に関する研究

(27120201)

腸管出血性大腸菌感染症、ノロウイルス感染症など、毎年大規模な流行を繰り返す食品由来感染症について、収集された病原体の分子疫学情報を解析し、その結果に基づき、広域な感染をもたらす流行型の探知もしくは予測を行い、食品由来感染症の予防とまん延の防止に資するシステムの構築に関する研究を募集する。

③ 薬剤耐性菌の蔓延に関する健康及び経済学的リスク評価に関する研究

(27120301)

平成 26 年 5 月に世界保健総会において薬剤耐性菌に関する決議が採択され、加盟国は薬剤耐性菌に関する対策を促進するよう求められている。今後我が国において対策を促進するにあたり対策の検討の基盤として必要となる、薬剤耐性菌の蔓延による健康上の損失及び経済学的な損失を評価する研究を募集する。

④ 予防接種の費用対効果の評価に関する研究

(27120401)

平成 26 年 3 月に策定された予防接種基本計画において、国は、予防接種施策の推進の科学的根拠として、ワクチンの有効性、安全性及び費用対効果に関するデータについて可能な限り収集を行うこととされた。これに伴い、予防接種政策の推進を図るため、予防接種の費用対効果の評価に関する研究を募集する。

2015年度前期		知の市場(シラバス)						継続			
科目No.	共催/関連講座PT211a	科目名	感染症総合管理1a				副題	感染症との闘いー現在問題となっている感染症ー			
連携機関名	国立感染症研究所	水準	中級	教室定員	35	配信定員	0	講義日時	火曜日 18:30~20:30	拠点 (開講機関)	東京・戸山 (国立感染症研究所)
科目概要(300字)	感染症の発症メカニズムおよび過去・現在・未来に問題となる感染症をわかりやすく解説する。それとともに、感染症に対して人類がどのように闘っているのか、またその中で専門機関、特に国立感染症研究所(感染研)が果たしている機能についても解説する。										

科目構成	No.	講義名	講義概要(150字)	講義日	開講場所	講師名	所属
総論	1	感染症序論	感染症とは何かを概説し、我が国及び諸外国で問題となっている感染症の全体像を紹介する。また、感染症の原因微生物を生物学的観点から解説し、当科目の導入部とする。	4月7日	国立感染症研究所 戸山庁舎 会議室	倉根 一郎	国立感染症研究所 所長
	2	感染症の発症機講	感染症がどのように起こるのかの発症機構をヒトおよび病原体側から解説する。特に、人体病理の面から人体の組織等の画像を用いて目で見て理解を深める。	4月14日		鈴木 志樹	国立感染症研究所 感染病理部室長
	3	細菌の病原性を担う遺伝子	様々な病原細菌が存在するが、どのようにして病気を引き起こすのだろうか？多彩な病原機能を解説し、其れを担う病原遺伝子のその機能について理解を深める。また、それらの病原因子が細菌間で伝播する仕組みを併せて紹介する。	4月21日		大西 真	国立感染症研究所 細菌第一部部長
	4	薬剤耐性と院内感染	今日、日本の医療現場では院内感染の事例が報告され、大きな社会問題となっている。本講では、院内感染の原因となる微生物や院内感染の防止対策について概説する。	5月12日		鈴木 里和	国立感染症研究所 細菌第二部室長
	5	国際的な感染症危機と感染症サーベイランス	感染症に国境はない。迅速な対応の為感染症危機に対する監視体制が重要である。本講では、感染症サーベイランスとはなにか、感染症危機探知のための国内の仕組み、国際的な枠組みについて、新興感染症等の具体例を用いながら解説する。	5月19日		松井 珠乃	国立感染症研究所 感染症疫学センター室長
各論	6	媒介昆虫と感染症	昆虫(蚊、ダニ、ハエ等)を媒介として病原体がヒトに感染する感染症にはどのようなものがあり、国内国外でどの程度問題になっているのか、その現状を紹介する。また、伝播メカニズムや予防法についても解説する。	5月26日		沢辺 京子	国立感染症研究所 昆虫医科学部部長
	7	重篤な真菌感染症	真菌は菌にカビと呼ばれており、日常生活で遭遇する身近な微生物である。真菌が原因となる病気として白癬(いわゆる水虫)が知られているが、生命を脅かす重篤な真菌感染症が増えており、医療現場では対応に苦慮する場合も多い。本講義では、ヒトに病気を起こす真菌の種類や性質と、代表的な真菌がおこす病気について概説する。	6月2日		宮崎 義継	国立感染症研究所 真菌部部長
	8	寄生虫と感染症	我が国で問題となっている寄生虫感染症及び発展途上国で問題となっている寄生虫感染症の概要を説明する。また、海外に出かけるときの予防対策上、留意すべき点についても紹介する。	6月9日		永宗喜三郎	国立感染症研究所 寄生動物部室長
	9	細菌性食中毒	我が国に於ける細菌性食中毒としては、腸管出血性大腸菌により汚染された食材を原因とする集団食中毒事例が記憶に新しいが、サルモネラ、腸炎ビブリオ、カンピロバクター等、他にも食中毒を引き起こす病原性細菌は多い。細菌性食中毒の発生状況を紹介し、個々の病原性細菌による発症機序等について概説する。	6月16日		森田 昌知	国立感染症研究所 細菌第一部主任研究官
10	ウイルス性食中毒	ノロウイルスは、ウイルス性食中毒の原因ウイルスとして広く知られている。サボウイルスやロタウイルスもウイルス性食中毒の原因となる事が明らかになっている。これらのウイルスの一般的な知識と最近の研究内容を紹介し乍ら、ウイルス性食中毒予防、治療薬、ワクチン等について考える。	6月23日	片山 和彦		国立感染症研究所 ウイルス第二部室長	
11	肝炎と原因ウイルス	肝炎ウイルスには5種類有り、我が国で問題となるのは流行性肝炎を起こすA型およびE型、血清肝炎の原因となるB型、C型ウイルスである。B型肝炎やC型肝炎は、慢性肝炎を起こすため大きな問題となっている。また、E型肝炎が人獣共通感染症として注目されている。ウイルス性肝炎の一般的な知識と最新の情報を紹介する。	6月30日	加藤 孝宣		国立感染症研究所 ウイルス第二部室長	
12	ウイルス性出血熱	1967年にドイツとユーゴスラビアで初めて発生が確認されたウイルス性出血熱であるマールブルグ出血熱と1976年にコンゴ民主共和国とスーダンで初めて発生が確認されたエボラ出血熱は、ともに致死率の高い感染症である。さらに、クリミアコンゴ出血熱、ラッサ熱も同様である。これらのウイルス性出血熱について、最近の研究結果をまじえて、流行の背景について解説する。	7月7日	西條 政幸		国立感染症研究所 ウイルス第一部部長	
13	感染症と癌/ヘリコバクター	近年、ヘリコバクターピロリと言う細菌と胃癌、胃潰瘍、胃癌との関係が注目されてきている。ヘリコバクターピロリとはどのような細菌で、どのような機構で胃炎等を起こすのかを最近の知見を交え、わかりやすく説明する。	7月14日	鈴木 仁人		国立感染症研究所 細菌第二部主任研究官	
14	感染症と癌/成人性T細胞白血病	ヒト細胞白血病ウイルス(HTLV-1)は、現在日本に約108万人感染者がいると言われている。感染から40年~60年を経て、感染者の一部で成人T細胞白血病(ATL)やHTLV-1関連骨髄腫(HAM)が発症する。ウイルス感染に付随して白血病の発症の可能性のある本疾患に関し、感染予防、診断、治療法を説明する。	7月21日	水上 拓郎		国立感染症研究所 血液安全性研究部室長	
15	性感染症/エイズ	エイズは、1981年に突如現れ、だれも予測できない規模で世界中にその感染を拡大している。2007年末の世界中のHIV感染者数は推計約3200万人であり、これまでに既に約6000万人のヒトが感染したと予測されている。講義では、エイズとHIVの疫学、ウイルス学、発症病理等を失明し乍ら、最新の治療法と予防法について紹介する。	7月28日	村上 努		国立感染症研究所 エイズ研究センター室長	

2015年度後期

知の市場(シラバス)

継続

科目No.	共催/関連講座PT211b	科目名	感染症総合管理1b					副題	感染症対策-ワクチンを中心にー			
連携機関名	国立感染症研究所	水準	中級	教室定員	35	配信定員	0	講義日時	火曜日18:30~20:30	拠点 (開講機関)	東京・戸山 (国立感染症研究所)	
科目概要(300字)	感染症との闘いの為のヒトの生体防御の働き、および感染を予防する為のワクチンの効能、またワクチンの安全がどのように確保されているのかを説明する。又、その中で感染症研究の専門機関、特に国立感染症研究所が果たしている機能についても解説する。											

科目構成	No.	講義名	講義概要(150字)	講義日	開講場所	講師名	所属	
総論	1	感染と宿主免疫	感染(宿主-病原体関係)における宿主免疫応答とその医療応用に関して、病原体に遭遇した場合のヒトの免疫応答の基礎知識やワクチン等免疫介入治療・予防に関する応用面を概説する。	9月1日	国立感染症研究所 戸山庁舎	阿戸 学	国立感染症研究所 免疫部部長	
	2	次世代ワクチンの開発	ワクチンが何故効くのかその原理と投与方法の総論と次世代ワクチンの候補として粘膜投与型ワクチン、DNAワクチン等の作用メカニズムと効果、開発状況について紹介する。	9月8日		長谷川秀樹	国立感染症研究所 感染病理部部長	
	3	感染症の予防とワクチン接種	ワクチンで予防可能疾患の国内及び国外の発生状況、我が国の現行ワクチン接種スケジュール、副反応等を概説し、感染症を予防する時のワクチンの重要性を解説する。	9月15日		多屋馨子	国立感染症研究所 感染症疫学センター室長	
	4	血液製剤の品質管理	血液製剤として多くのものが使われているが、それらの安全性がどのように保証されているのかの仕組みを紹介する。	9月29日		大隈 和	国立感染症研究所 血液・安全性研究部室長	
	5	生物製剤の品質管理	ワクチンは健康な人を対象に予防目的で接種されるものである。であるがゆえに、有効性のみならず、安全性には特に注意しなければならない。一方、ワクチンは生き物を使って製造、試験しなければならないという特殊性についても紹介する。	10月6日		加藤 篤	国立感染症研究所 品質保証・管理部部長	
	6	インフルエンザワクチン	通常の季節性インフルエンザとパンデミック・インフルエンザに対するワクチンに求められる特性には違いがある。現在我が国および海外で認可されているワクチンと両ワクチンとの関係およびワクチン株選定の過程について紹介する。	10月13日		板村 繁之	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス 研究センター室長	
	7	肝炎ワクチン	肝炎の発症予防の為のワクチンが開発され、我が国ではA型、B型肝炎ワクチンが任意接種として使用されている。特に、B型肝炎ワクチンの母子感染予防にはたした役割等について紹介する。	10月20日		石井 考司	国立感染症研究所 ウイルス第二部室長	
	8	DPTワクチン	DPT疾患(ジフテリア・破傷風・百日ぜき)の国内および国外の現状とそれら疾患を予防する為に果たしてきたDPTワクチンの役割について概説する。	10月27日		阿戸 学	蒲池 一成	国立感染症研究所 細菌第二部室長
	9	麻疹・風疹の現状とワクチン	麻疹、風疹の日本、並びに世界の現状、原因となるウイルスの性状、並びに麻疹ワクチン、風疹ワクチンの開発の歴史、効果等を概説する。また、WHOが勧める麻疹排除計画、風疹排除計画についても説明する。	11月10日		駒瀬 勝啓	国立感染症研究所 ウイルス第三部室長	
各論	10	日本脳炎ワクチン	日本脳炎はかつて我が国では多数の小児が発症し、死者、後遺症併発者が多かったが、現在では発症者は希となった。しかし、いまもアジア地域では重大感染症の一つであるがワクチンは普及していない。我が国及びアジアにおける日本脳炎の対策、ワクチンの在り方などについて概説する。	11月17日	高崎 智彦	国立感染症研究所 ウイルス第一部室長		
	11	肺炎球菌感染症と肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌は、小児や高齢者に菌血症・髄膜炎などの侵襲性感染症や肺炎、中耳炎等をおこす。肺炎球菌ワクチンには小児用、成人用ワクチンがあるが、これらの特徴や臨床効果について概説する。	11月24日	大石 和徳	国立感染症研究所 感染症疫学センター長		
	12	結核	結核とはどういう病気か、起病菌の結核菌の特徴およびBCG接種をはじめとする現在講じられている結核対策を含めて概説する。また、結核菌と近縁な菌によるハンセン病についても触れる。	12月1日	田村 敏生	国立感染症研究所 ハンセン病研究センター室長		
	13	水痘等のヘルペスワクチン	水痘・サイトメガロウイルスなどのヘルペス科ウイルスによる各種感染症および我が国で開発された水痘ワクチンの現状とその効用について紹介する。	12月8日	西條 政幸	国立感染症研究所 ウイルス第一部部長		
	14	世界ポリオ根絶計画とポリオワクチン	WHOを中心にポリオ根絶計画が進められているが、その現状と問題点について、世界的な視点および日本の立場に基づいて解説する。とくに、ポリオ根絶最終段階における、ポリオワクチン戦略にかかわる諸課題について説明する。	12月15日	清水 博之	国立感染症研究所 ウイルス第二部室長		
	15	ヒトパピローマウイルス	ヒトパピローマウイルス(HPV)は、性行為を介して感染し、子宮頸がんの原因となるウイルスである。近年、欧米にてHPVに対する感染予防ワクチンが開発され、我が国を含む全世界で導入されている現状を紹介する。	12月22日	終元 巖	国立感染症研究所 病原体ゲノム解析研究センター室長		

201517016A(別添)

厚生労働科学研究費補助金

新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業

新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の
総合的推進に関する研究

平成27年度 総括・分担研究報告書(別添)

平成27年度 厚生労働科学研究費補助金
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業

研究成果の概要

研究代表者 山内 和志

平成28年(2016)年3月

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業
「新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の総合的推進に関する研究」

研究代表者：山内 和志（国立感染症研究所 企画調整主幹）

平成27年度 総括・分担研究報告書（別添）

「研究成果の概要」

平成27年度厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の研究課題に関して、平成28年1月21日に開催された研究発表会及び中間・事後評価委員会資料（成果概要及びプレゼンテーション資料）をまとめた資料。

平成27年度 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 研究成果概要
目次

(1年目)		開始 年度	終了 年度	頁
荒川 創一	性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	27	29	9
泉谷 秀昌	食品由来感染症の病原体情報の解析及び共有化システムの構築に関する研究	27	29	19
池田 俊也	予防接種の費用対効果の評価に関する研究	27	29	27
松井 珠乃	新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメント	27	29	31
小田切 孝人	新型及び季節性インフルエンザワクチン株の選定に資するサーベイランスの強化とゲノム解析に関する研究	27	29	38
祖父江 友孝	子宮頸がんワクチンの有効性と安全性の評価に関する研究	27	29	44
今中 雄一	薬剤耐性菌の蔓延に関する健康及び経済学的リスク評価に関する研究	27	29	52
大曲 貴夫	中東呼吸器症候群(MERS)等の新興再興呼吸器感染症への臨床対応法開発のための研究	27	29	59
(2年目)				
谷口 清州	感染症発生時の公衆衛生的対策の社会的影響の予測及び対策の効果に関する研究	26	28	69
棚林 清	エビデンスに基づくバイオリスク管理の強化と国際標準化及び事故・ヒヤリハット事例の共有データベース構築に関する研究	26	28	80
加藤 康幸	一類感染症の患者発生時に備えた治療・診断・感染管理等に関する研究	26	28	88
西條 政幸	バイオテロに使用される可能性のある病原体等の新規検出法の確立、及び細胞培養痘そうワクチンの有効性、安全性に関する研究	26	28	97
廣田 良夫	ワクチンの有効性・安全性評価と VPD (vaccine preventable diseases) 対策への適用に関する分析疫学研究	26	28	120
山内 和志	新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の総合的推進に関する研究	26	28	130
小澤 真	国内における豚インフルエンザ流行動態の解明	26	28	135

(3年目)		開始 年度	終了 年度	...	頁
小田切 孝人	地方自治体との連携による新型インフルエンザ等の早期検出およびリスク評価のための診断検査、株サーベイランス体制の強化と技術開発に関する研究	25	27	...	147
八木 哲也	医療機関における感染制御に関する研究	25	27	...	156
苅和 宏明	近隣地域からの侵入が危惧されるわが国にない感染症の発生予防に関する研究	25	27	...	169
大石 和徳	成人の重症肺炎サーベイランス構築に関する研究	25	27	...	182
宮崎 義継	国内の病原体サーベイランスに資する機能的なラボネットワークの強化に関する研究	25	27	...	189
山田 章雄	社会情勢の変化を踏まえた我が国における狂犬病対策のあり方に関する研究	25	27	...	218
多屋 馨子	日本脳炎ならびに予防接種後を含む急性脳炎・脳症の実態・病因解明に関する研究	25	27	...	228
池田 修一	子宮頸がんワクチン接種後の神経障害に関する治療法の確立と情報提供についての研究	27	27	...	251

1 年目研究課題

平成 27 年度 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業研究『成果概要』

研究課題 : 「性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究」

課題番号 : H27-新興行政-一般-001

予定期間 : H27 年度から H29 年度まで

研究代表者 : 荒川 創一

所属研究機関・所属部局 : 神戸大学・大学院医学研究科

職名 : 特命教授

交付額(含む間接経費):1 年目 5,500,000 円 合計 5,500,000 円

I. 研究の背景・意義

- (1) 性感染症の全国での発生状況を精緻に調査する研究を過去、継続的に行ってきた。今回、妊婦健診データ等も含めた、より綿密なデータ収集により、実態を明白とする。その際に、国立感染症研究所の 5 類性感染症動向調査と比較し、正しいトレンドを把握する。
- (2) 近年、増加が著しい梅毒について、その実態を調査する。
- (3) 性感染症の疾患の特徴として、自覚症状に乏しく、特に若年者においては無自覚に伝播させている場面が多く想定されるが、そのスクリーニング検査と陽性者の医療機関への受診システムが未整備である。
- (4) 日本人女性における HPV 感染の現状が不明である。
- (5) 若年者への性感染症予防教育のための標準教材のアップデートが望まれる。
- (6) *Mycoplasma genitalium* の検査が保険診療では不可である。

II. 研究の目的、期待される成果

- (1) 性感染症の発生頻度の真のデータを把握する。
- (2) 梅毒流行を食い止める。
- (3) 性感染症患者(特に若年者)のために医療機関へのアクセス整備・医療ネットワークを構築して、早期に医療機関受診を促し、感染拡大や不妊に至ることを防ぐ。
- (4) 子宮癌検診システムの再構築を目指す。
- (5) 若年者への性感染症予防教育教材の刷新。
- (6) *Mycoplasma genitalium* 検査の保険収載・実用化。

III. 1 年間の研究成果

・研究代表者(荒川創一)

- (1) 4 モデル県における、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症、梅毒、非クラミジア非淋菌感染症について、妊婦健診のデータなども含め、精緻な解析から、これらの罹患率を推計した。
- (2) 上記のうち、特に梅毒について、その流行傾向がないかを調査した。
- (3) 若年者への性感染症予防教育についての標準スライドをバージョンアップさせた。

・研究分担者(川名 敬)

- (1) 尖圭コンジローマ合併妊婦の妊娠管理による出生児の呼吸器乳頭腫症発症予防戦略を確立した。
- (2) 日本産科婦人科学会、女性ヘルスケア委員会の委員として、日本産科婦人科学会による尖圭コンジローマ患者

および尖圭コンジローマ合併妊婦の診断・管理・治療に関する全国調査を企画した。

・研究分担者(三嶋廣繁)

日本人女性子宮頸部における HPV 検出の型別状況を検討した。

・研究分担者(砂川富正)

定点把握 4 疾患に関して、性感染症発生動向調査のデータを用い、2000～2014 年までの定点当たり報告数の推移、性別・年齢階級別定点当たり報告数の推移を検討した。

・研究分担者(中瀬克己)

(1) 性感染症に関する特定感染症予防指針に追記された口腔を介した性感染症に関して、全国の地方感染症情報センター、都道府県および保健所設置市を対象に、動向把握のため定点医療機関に耳鼻咽喉科を追加する必要性、その要件、に関し調査し把握した。

(2) 現在は無い性感染症に関する病原体定点を追加する必要性を上記の対象に調査し把握した。

(3) 近年の梅毒の増加も踏まえ、特定感染症予防指針に明記されていなかった集団発生やアウトブレイク(通常を上回る先天梅毒の増加等)への自治体の詳細把握(積極的疫学調査)の実施状況を調査し次回の改訂に資する情報を得た。

(4) 地方感染症情報センターの研究会である公衆衛生情報研究協議会において研究成果について報告し周知を図った。

・研究分担者(白井千香)

(1) 医療機関受診へのアクセスモデルの構築については、準備中であり、まずは現行の発生動向の周知を自治体から一般啓発として特に「梅毒の増加」を意図して実施した。

(2) 兵庫県医師会の感染症研修会等で、性感染症対策における若年者への情報提供や発生状況から診断・治療について、医療関係者及び教育関係者に伝達し、認識の共有を図った。

・研究分担者(濱砂良一)

Seegee 社の Anyplex STI-7 Detection および旭化成 リボテスト マイコプラズマを用いて、臨床分離 *Mycoplasma genitalium* 株 17 株の検出限界を測定した。旭化成 リボテスト マイコプラ 10 ズマでは菌液の原液でマイコプラズマ陽性を確認できたが、その DNA コピー数は $2 \times 10^4 \sim 3 \times 10^5$ であった。

・研究分担者(余田敬子)

耳鼻咽喉科受診者における淋菌・クラミジアの咽頭感染の臨床像を検討した。

IV. 平成 28～29 年度の課題

(1) 性感染症の発生動向把握の安定した手法の確立。

(2) 尖圭コンジローマ合併妊婦において、帝王切開分娩選択されている頻度の実態把握。

(3) 妊娠中の尖圭コンジローマ治療法の実態把握を行い、適切な治療法の啓発を行う。

(4) 4 価 HPV ワクチン既接種群と非接種群における尖圭コンジローマ発症率について検討する。

(5) 性感染症の動向において利用度や有効性の高い還元内容やその方法の明確化。

(6) 性感染症における集団発生やアウトブレイク対応と成果の実例把握と関係機関への提供。

(7) 性感染症に関する積極的疫学調査を支援する資材の充実。例えば、調査様式や手順、マニュアルなど。

(8) 若年者への情報提供と医療機関への受診アクセスについて、インターネット環境の条件確認。

(9) 行政(地方自治体・保健所)と医療機関の性感染症に関する効率的な情報共有。(他の多くの情報に紛れてしまわないよう必要十分情報の優先度を上げること)

- (10)検査対象者を増やし、耳鼻咽喉科領域における淋菌・クラミジアの咽頭感染の実態解明を進める。
- (11)梅毒の流行阻止。

V. 行政施策への貢献

- (1) 増加している性感染症(特に梅毒)への重点的対策、啓発を展開する。
- (2) *Mycoplasma genitalium* の検出キットの実用化により、非淋菌性尿道炎の原因菌を一段と明確にし、新たな性感染症の治療体系をつくる。
- (3) 若年者への性感染症予防啓発スライドの提供。
- (4) 口腔内性感染の対策の推進。
- (5) HPV 不顕性感染と HPV 母子感染症に対する知識の啓発。
- (6) 接種勧奨が一時中止されている HPV ワクチンについて、時機をみて市民公開講座等による啓発。
- (7) 感染症発生動向調査から得られる性感染症の発生動向の解析結果は、地方や中央行政における様々な対策のメルクマールになるのみならず、情報公開にも大きく貢献することが期待される。若い女性での梅毒の増加に関しては、感染症発生動向調査に基づいた解析結果から、厚生労働省の啓発活動にむすびついている。
- (8) 特定感染症予防指針の示した課題への自治体の対応状況を把握し、施策の進捗管理に資する。
- (9) 先進的な自治体の対応事例を把握し紹介する事で効果的な対策の普及に寄与できる。
- (10)感染症発生動向調査(STD 定点)の調査票の項目に「口腔・咽頭淋菌感染症」と「口腔・咽頭クラミジア感染症」を新規項目として加えること、および同調査に耳鼻咽喉科が加わる意義を示す資料となる。
- (11)子宮がん検診システムの再構築への有益な情報を提供できる。

VI. 本研究の成果一覧(発表論文・ガイドライン・マニュアル等)

- (1) 荒川創一:性感染症を巡る最近の話題一様々な角度(排尿障害、……)から一. 姫路皮膚科泌尿器科医会総会・講演会 2015
- (2) 荒川創一:再び増加している性感染症(STI)の現状とその対策. 第6回東海STI研究会 2015
- (3) Arakawa S:Prevention and Education of STIs. Asian UTI and STI Forum 2015 2015
- (4) Arakawa S: Recent trend of STI incidence in Japan. 5th Korea-Japan Workshop for Urogenital Infections-Korea-Japan Expert Meeting on Urological UTI- 2015
- (5) 高橋 樹里, 田口 歩, 川名 敬, 長阪 一憲, 足立 克之, 永松 健, 大須賀 穰, 藤井 知行:母子感染予防のための尖圭コンジローマ合併妊婦に対するレーザー蒸散術の有用性とウイルス学的検討, 臨床婦人科産科 69: 697-702, 2015
- (6) 学会発表:金井瑞恵、有馬雄三、島田智恵、高橋琢理、松井珠乃、砂川富正、大石和徳. 先天梅毒報告例の記述疫学ー感染症発生動向調査(2011-2014年)より. 日本性感染症学会第28回学術集会.東京.2015年12月.
- (7) 学会発表:有馬雄三. 国内外の梅毒の疫学的状況. 日本性感染症学会第28回学術集会.東京.2015年12月.
- (8) 余田敬子:口腔・咽頭に関連する性感染症 日本耳鼻咽喉科学会会報 2015.知的財産権の取得なし。
- (9) 余田敬子:口腔粘膜疾患-特徴と治療の要点-性感染症を疑う口腔粘膜疾患の診療 MB ENT 2015.知的財産権の取得なし。

Ⅶ. (1年間の研究成果)の概要図等

性感染症の全国実態把握、特に梅毒の動向調査

- ・ 4モデル県における妊婦検診を含めた精緻な分析
⇒増加している性感染症、特に梅毒の流行の有無

(成果) 性感染症の伝播状況に合わせた行政施策の立案
自治体ごとの取り組みにつなげる

母子衛生における HPV 等の垂直感染の問題点の明確化

- ・ 尖圭コンジローマ合併妊婦の実態把握 → 児の呼吸器乳頭腫予防
- ・ 先天梅毒の阻止を妊婦検診により徹底化

(成果) 垂直感染の防止による健常児の育成

若年者への性感染症予防啓発のための教材の刷新

- ・ 性感染症の正しい知識を常識化させる
- ・ 若者が性感染症罹患・保菌時に医療機関に受診しやすいシステムの構築

(成果) 性感染症罹患率の低減と罹患者の早期治療と治癒

口腔性感染症の実態調査とアプローチ

- ・ 全国のモデル県調査に耳鼻咽喉科の参画
- ・ 近い将来には定点動向調査に広げる

(成果) 口腔を介した性感染症伝播の抑制

新規性感染症原因微生物検査法の確立

- ・ *Mycoplasma genitalium* キットの実用化
- ・ これらの薬剤感受性をモニタリングし、治療選択薬の適正化の推進

(成果) 難治性性感染症の減少と伝播抑制

性感染症としての女性 HPV 感染と子宮頸癌についての新たな研究の展開

- ・ 日本人女性の HPV 感染の実態把握
- ・ 子宮がん検診の再構築

(成果) 子宮癌撲滅作戦の再活性化



特定感染症予防指針に基づく効果的かつ
継続的な性感染症対策実施の推進

●研究代表者の研究歴等

・過去に所属した研究機関の履歴

- 1978年3月 鹿児島大学医学部医学科 卒業
1983年3月 神戸大学大学院医学研究科 修了
1993年7月 神戸大学医学部泌尿器科 助教授
(1994年4月～1995年8月ドイツ：ビッテンヘルデッケ大学泌尿器科客員医師)
1999年6月 神戸大学医学部附属病院 感染制御部長 (現在にいたる)
2002年7月 神戸大学医学部附属病院 手術部准教授・手術部長
2009年8月 神戸大学大学院医学研究科 地域社会医学・健康科学講座
総合臨床教育・育成学分野 特命教授
2010年2月 神戸大学大学院医学研究科 腎泌尿器科学分野 特命教授 (現在にいたる)
2014年4月 神戸大学大学院医学研究科 地域社会医学・健康科学講座
地域医療ネットワーク学分野 特命教授 (現在にいたる)

・主な共同研究者(又は指導を受けた研究者)

- 石神襄次第2代神戸大学医学部泌尿器科教授
守殿貞夫第3代神戸大学医学部泌尿器科教授
藤澤正人第4代神戸大学医学部泌尿器科教授

・主な研究課題

- 尿路性器感染症
性感染症
感染症全般、感染制御、骨盤臓器脱手術、尿失禁手術

・これまでの研究実績 (2013年～2015年の過去3年間の実績)

- (1) 荒川創一、後藤百万 (編)、小川 修 (編)、笈 善行 (編)、出口 隆 (編)、宮澤克人 (編) : EBM 泌尿器疾患の治療 2015-2016 尿路カテーテル留置患者からの定期的な尿の監視培養は必要か? 中外医学社 552 - 555 2015
(2) 荒川創一、菅谷憲夫 (編) : インフルエンザ診療ガイド 2015-16 予防・治療 高齢者施設における感染予防. 日本医事新法社 104-110 2015
(3) Shigemura K, Takase R, Osawa K, Takaba K, Nomi M, Fujisawa M, Arakawa S : Emergence and prevention measures for multidrug resistant *Pseudomonas aeruginosa* in catheter-associated urinary tract infection in spinal cord injury patients. *Spinal Cord* 53(1) 70-74 2015
(4) Sudarmo SM, Shigemura K, Athiyah AF, Osawa K, Wardana OP, Darma A, Ranuh R, Raharjo D, Arakawa S, Fujisawa M, Shirakawa T : Genotyping and clinical factors in pediatric diarrhea caused by rotaviruses: one-year surveillance in Surabaya, Indonesia. *Gut Pathog* 8 2015
(5) Yamamichi F, Shigemura K, Arakawa S, Tanaka K, Fujisawa M : CD-163 correlated with symptoms (pain or discomfort) of prostatic inflammation. *Int J Clin Exp Pathol* 8(3) 2408-2414 2015

- (6) Shigemura K, Osawa K, Kato A, Tokimatsu I, Arakawa S, Shirakawa T, Fujisawa M: Association of overexpression of efflux pump genes with antibiotic resistance in Pseudomonas aeruginosa strains clinically isolated from urinary tract infection patients. J Antibiot (Tokyo) Apr 8 2015
- (7) *Shigemura K, Osawa K, Miura M, Tanaka K, Arakawa S, Shirakawa T, Fujisawa M: Azithromycin resistance and its mechanism in Neisseria gonorrhoeae strains in Hyogo, Japan. Antimicrob Agents Chemother 59(5) 2695-2699 2015*
- (8) Osawa K, Shigemura K, Shimizu R, Kato A, Kusuki M, Jikimoto T, Nakamura T, Yoshida H, Arakawa S, Fujisawa M, Shirakawa T: Molecular characteristics of extended-spectrum β -lactamase-producing Escherichia coli in a university teaching hospital. Microb Drug Resist 21(2) 130-139 2015
- (9) Shigemura K, Osawa K, Yamamichi F, Tanaka K, Tokimatsu I, Arakawa S, Fujisawa M: Optimal vancomycin doses for methicillin-resistant Staphylococcus aureus infection in urological renal dysfunction patients. Int Urol Nephrol 47(6) 887-891 2015
- (10) Hamasuna R, Takahashi S, Nagae N, Kubo T, Yamamoto S, Arakawa S, Matsumoto T: Obstructive pyelonephritis as a result of urolithiasis in Japan. Int J Urol 22 294-300 2015
- (11) Ishikawa K, Hamasuna H, Uehara S, Arakawa S, Fujisawa M, et al: Japanese nationwide surveillance in 2011 of antimicrobial susceptibility patterns of clinical isolates from complicated urinary tract infection cases. J Infect Chemother 21 623-633 2015
- (12) *Hamasuna R, Yasuda M, Ishikawa K, Arakawa S, Fujisawa M, et al: The second nationwide surveillance of the antimicrobial susceptibility of Neisseria gonorrhoeae from male urethritis in Japan, 2012-2013. J Infect Chemother 21 340-345 2015*
- (13) Osawa K, Shigemura K, Shirai H, Kato A, Okuya Y, Jikimoto T, Arakawa S, Fujisawa M, Shirakawa T: Bacterial identification using ssrA encoding transfer-messenger RNA. Southeast Asian J Trop Med Public Health 46 720-727 2015
- (14) Shigemura K, Tanaka K, Yamamichi F, Arakawa S, Fujisawa M: Prophylactic efficacy of cephamycin plus fluoroquinolones in high risk patients on inhibiting infectious complications after transrectal prostate biopsy. Spinal cord In press 2015
- (15) 楠木まり、中村竜也、小林沙織、小林泰菜、大沼健一郎、矢野美由紀、直本拓己、中村正邦、林 伸英、木村幸司、荒川宜親、吉田弘之、荒川創一: Streptococcus agalactiae における β -ラクタム系薬剤性感受性に関する検討. 日臨微誌 25 (4) 283-289 2015
- (16) 林三千雄、中井依砂子、藤原広子、幸福知己、北尾善信、時松一成、荒川創一: 温水洗浄便座汚染が伝播の一因と考えられた metallo- β -lactamase 産生緑膿菌集団事例の検討. 環境感染誌 30 (5) 317-324 2015
- (17) 白井千香、古林敬一、川畑拓也、吉田弘之、荒川創一: 性感染症クリニック及び産科病院における口腔内性感染症に関する検体検査と性行動アンケート調査. 日本性感染症学会誌 26 (1) 91-96 2015

- (18) 谷畑健生、秋元義弘、武島 仁、五十嵐辰男、安田 満、種部恭子、金山博臣、荒川創一：平成25年7モデル県の性感染症診療医療機関全数調査推計有病率と国立感染症研究所の定点報告推計有病率の比較～7県医療機関全数調査結果と定点調査報告結果の有病率はなぜ乖離したのか？. 日本性感染症学会誌 26 (1) 109-116 2015
- (19) 荒川創一：第30回日本環境感染学会総会・学術集会. The Medical&Test Journal(じほう) 2015年2月11日第1299号 4 2015
- (20) 荒川創一：敗血症～ガイドラインからみた治療戦略～. MEDICAMENT NEWS 2015年5月25日号第2196号 6-10 2015
- (21) 中村竜也、時松一成、荒川創一：昨今の薬剤耐性菌の動向―国内・国外および院内・院外の現況. 感染と抗菌薬 18(2) 105-112 2015
- (22) 重村克巳、荒川創一、藤澤正人：薬剤耐性菌を考慮した尿路感染症の抗菌薬治療とは？―泌尿器科の立場から―. 日化療会誌 63 (5) 462-472 2015
- (23) 荒川創一、李 宗子：泌尿器内視鏡に関連する感染制御のポイント (ビデオ). Audio-Visual Journal of JUA 21 (4) ビデオ (22分08秒) 2015
- (24) 重村克巳、荒川創一、藤澤正人：特集 抗菌薬の選択と上手な使い方！―私の処方箋 無症候性細菌尿/カテーテル関連尿路感染症. 臨床泌尿器科 69 (8) 652-655 2015
- (25) 青木信樹、荒川創一 (副委員長)、尾内一信、大西健児、金子明寛、清田浩、舘田一博、松下和彦、三笠桂一、三嶋廣繁、望月清文、山中 昇、吉田正樹、渡辺晋一 (以上11名委員で編集)：JAID/JSC 感染症治療ガイド2014. ライフサイエンス出版 1-347 2014
- (26) 荒川創一、本田孝行 (編)：ワンランク上の検査値の読み方・考え方 尿路感染症. 総合医学社 138-147 2014
- (27) 荒川創一、井村裕夫 (編)：第4版 わかりやすい内科学 B グラム陰性球菌感染症 I 髄膜炎菌感染症 II 淋菌感染症. 文光堂 394 - 395 2014
- (28) 荒川創一、小林寛伊 (総編)、大久保憲、林 純、松本哲哉 (監修)、尾家重治 (編)：感染制御標準ガイド 院内の感染対策組織のシステム化・要因. じほう 323-327 2014
- (29) 荒川創一：病原微生物 基礎と臨床 尿路感染症. 東京化学同人 247 - 251 2014
- (30) Nakane K, Yasuda M, Deguchi T, Takahashi S, Tanaka K, Hayami H, Hamasuna R, Yamamoto S, Arakawa S, Matsumoto T: Nationwide survey of urogenital tuberculosis in Japan. Int J Urol 21 1171 - 1177 2014
- (31) Osawa K, Shigemura K, Jikimoto T, Shirakawa T, Fujisawa M, Arakawa S: Comparison between phage-open-reading frame typing and automated repetitive-sequence-based PCR for typing MRSA isolates. J Antibiot (Tokyo) 67(8) 565-569 2014
- (32) Yamamichi F, Shigemura K, Yamashita M, Tanaka K, Arakawa S, Fujisawa M: Postoperative wound healing and superficial surgical site infection in open radical prostatectomy. Int Wound J 4 2014
- (33) Shigemura K, Tanaka K, Arakawa S, Miyake H, Fujisawa M: Postoperative bacteriuria, pyuria and urinary tract infection in patients with an orthotopic sigmoid colon neobladder replacement. 67(2) 143-145 2014